

橋梁研新聞

平成28年12月28日発行

第1号

当研究室の1年間の活動をまとめました。

卒業・留学

後期博士課程
前期博士課程

白倉誠 池田裕哉
有山大地
中川翔太

トビタテ(ドイツ)

馬場幸志

◆新しく赴任・配属・帰国された方々

客員教授

三ツ木幸子

後期博士課程

上野勝敏

トビタテ(トルコ)

儀賀大己

前期博士課程

舟山耕平

学部4回生

奥原大貴 廣澤直人
本多克行

今年度は右の通り、5名の方が卒業・留学され、また7名の方が研究室に加わり、より活気あふれる研究室となりました。研究室に所属される他の皆様は下の表の通りです。来年も全員で協力し、切磋琢磨し、素晴らしい研究成果を上げられるように、日々努力していきます。



教授	山口	客員教授	長崎
秘書	北見 石田		
D2	森山		
M2	儀賀 金城 堂ノ本 藤田 山本 淳 郎		
M1	小林 杉本 戸田 森下		
研究生	山本佑		

グローバル活動

平成28年度の橋梁研は海外交流も盛んに行いました。

海外留学

現在修士2回生の儀賀はトルコで約1年間のインターンシップを経験されました。また現在は修士1回生の馬場さんがドイツに留学中です。

シンガポール Nanyang Technological Universityとの交流

大阪市立大学にシンガポールの学生が訪れ、橋梁研の学生数名も学校案内に協力いたしました。

独日シンポジウム

8月29〜31日に大阪工業大学にて、独日シンポジウムが開催されました。橋梁研からは5名が発表しました。英語での発表が初めての学生もいましたが、全員無事発表を終えました。

ミャンマーでの橋梁計測(ヤダナポン橋梁)

修士2回生の堂ノ本が約1週間、ミャンマーにて橋梁計測を行いました。

海外での論文発表

数々の論文発表も行いました。オランダで修士2回生の堂ノ本、ベトナム・台湾で博士課程2回生の森山、中国上海で修士2回生の郎が参加しました。

9月1・2日に群馬県前橋工科大学で開催された鋼製橋梁模型のコンテスト「Japan Steel Bridge Competition」に、本学から2チームが参加しました(当研究室からは修士1回生5名、学部4年生2名が参加)。全国の大規模なコンテストで、20名の移動荷重を載せる中、チームA「Wing Arch」は美観部門優勝、構造部門3位、チームB「たわみ丸」は美観部門2位、架設部門2位、総合部門3位という結果を収めました。大阪市立大学は美観部門3連覇、総合部門2年連続入賞を達成しました。



(上) 橋梁模型「POLYCA WAVE BRIDGE」
(下) 橋梁模型と参加メンバー

11月19日、神戸市の橋の科学館で、高校生・大学生が参加する木製の橋梁模型コンテストが開催され、学部4年生3名と研究生1名が参加しました。当チームの橋梁模型は、20名の移動荷重を載せる競争中、その挑戦的な橋梁形式が評価され、敢闘賞を頂くことができました。このコンテストには昨年度から参加しており、今年度が初入賞でした。

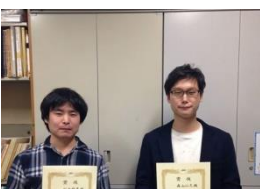


写真1(右:小林, 左:杉本)

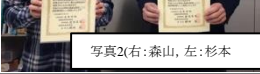


写真2(右:森山, 左:杉本)

学会発表

★平成28年度 土木学会 関西支部 年次学術講演会

6月11日に立命館大学にて行われた本学会へ、修士1回生の5人と研究生の山本佑の計6人が論文を投稿し、プレゼンテーションを行いました。その結果、修士1回生の小林と杉本が優秀賞を受賞しました。(写真1)

★平成28年度 全国大会 第71回 年次学術講演会

9月7・9日に東北大学にて行われた本学会へ、修士1回および2回生、博士2回生、研究生、昨年度の卒業生の計10名が論文を投稿し、プレゼンテーションを行いました。その結果、博士2回生の森山と修士1回生の杉本が優秀賞を受賞しました。(写真2)

★平成28年度鋼構造シンポジウム

11月17・18日に東京ファッショントウンにて行われた本学会へ、卒業生3名を含む計5題の査読付き論文を投稿し、プレゼンテーションを行いました。

岑山様の「活躍」

株式会社駒井ハルテックの岑山様は橋梁研の卒業生であり、現在も共同研究（緊急仮設橋の主桁連結部の構造最適化に関する研究）でお世話になっております。岑山様のご指導のおかげで共同研究で多くの賞を受賞することができました。そんな岑山様にとって平成28年は非常にめでたい年になったのではないのでしょうか。栄誉ある伊藤學奨励賞の受賞、そして何よりご結婚本当におめでとございます。本日の忘年会では旦那様もお見えになっております。是非、馴れ初めやエピソードをお話しいただき、忘年会に参加されている皆さままでお祝いしましょう。来年も岑山様ご夫婦のご多幸を研究室一同お祈りいたしております。

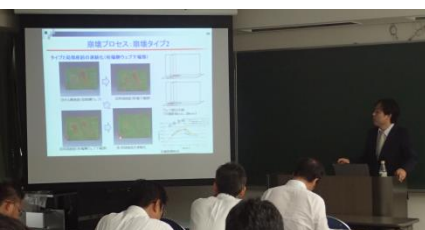
受賞者
岑山 友紀氏

2006年大阪市立大学工学研究科都市系専攻修士課程終了後、(株)ハルテック[現(株)駒井ハルテック]入社。以来、鋼橋の設計、現地工事、研究開発と、多種多様な業務に携わってきた。現場工事では、2010年から3年間、阪神高速道路海老江ジャンクション工事における設計主任として、施工ステップごとの応力照査と精度管理を現場と共有し、施工に反映させ、精度よく無事故・無災害で完工させた。

2013年からは、(独法)土木研究所、大阪工業大学、橋建協の共同研究である「橋台部ジョイントレス構造における鋼-コンクリート接合構造の設計・施工法に関する研究」の中心メンバーの一人として解任を担当し、試設計結果などと合わせて2015年度橋建協技術発表会で発表された。またこの時期、研究開発業務にも従事し、その成果を2014年のIABMAS国際会議や第28回信頼性シンポジウムに論文発表し、後者では優秀研究発表賞(社会人部門)を受賞している。また、実務経験10年余で技術士の資格を取得するなど、常に技術の研鑽・向上に努めてきた。

橋建協パンフレットに掲載されました!!

平成28年9月30日、社会人ドクターコース在籍の白倉誠様が、後期博士課程を修了し、学位を授与されました。白倉様は、「鋼I桁橋の腐食した桁端部の耐力とその簡易評価法に関する研究」という題目で、腐食により断面欠損を有する場合の桁端の耐力を検討すべく、実際の桁端の腐食調査結果を分析し有限要素解析を行われました。博士論文には、腐食による欠損部材、位置および欠損高さに着目し、耐力と崩壊プロセスを検討した後、実務を考慮した簡易耐力評価式を提案された結果がまとめられました。白倉様には、研究室学生一同、多大なるご指導を賜りました。白倉様の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、白倉様のような技術者になれるよう、より一層、研究に励みます。



博士論文公聴会の様子



学位授与式後記念撮影 当大学にて

ゼミ旅行

11月5〜7日に2泊3日でゼミ旅行で四国をめぐるしました。1日目は阿波しらさぎ大橋、祖谷温泉、高知を巡り、2日目は片岡沈下橋、四国カリスト、道後温泉を巡り、充実した休日をお過ごししました。また、最終日には、川田工業株式会社の四国工場にお邪魔させていただきました。勉強させていただきました。講習会での橋梁設計に関する講習と橋梁架設工事に関する紹介本格的な溶接体験と普段体験することができない非破壊検査体験、壮大で繊細な作業風景に研究室一同が圧倒された工場内見学と非常に中身の濃い時間を過ごさせていただきました。



四国カルスト



松山城前



片岡沈下橋



阿波しらさぎ大橋

平成28年度関西鋼構造ソフトボール大会が大阪大学にて、開催されました。今年こそは優勝をと研究室一一致団結して、望んだ本大会は、4回生の奥原君の力投と山口先生の勝負強さ(ジャンケン)により、見事準優勝に輝きました。また余興では上野さん、本多君を筆頭に、会場を大爆笑に包み、他を圧倒して余興優勝を飾りました。



右 エースの奥原君と笑顔で打席に立つ強打者山口教授
下 余興最優秀賞受賞 写真(B4本多君)



- 投稿論文一覧
- △土木学会論文集・森山(博)2:ボルトピッチおよび列数が高力ボルト摩擦接合継手の支圧限界力に与える影響の基礎的検討。儀賀(修)2:ねじ付きスタッドによりあて板した鋼板の繰り返し引張挙動に関する基礎的研究
 - △構造工学論文集・馬場(修)2:鋼鉄道橋のカバレッジ理論文集・藤田(修)2:字形材をボルト接合した鋼板パネルにおけるボルト間隔が補剛効果に与える影響に関する解析的研究。池田(幸)2:球状黒鉛鉄板を用いた高力ボルト摩擦接合継手の変動を考慮した終局荷重およびエネルギー吸収量に関する基礎的研究
 - △鋼構造論文集・舟山修一:片側2本ボルトの高力ボルト継手の終局挙動
 - △鋼構造年次報告論文集・白倉(博)2:崩壊プロセスに基づいた腐食した桁端部の耐力評価の検討。山本(修)2:追加孔を有する高力ボルト摩擦接合継手のすべり耐力実験。舟山(修)1:ボルトのせん断断破を伴う高力ボルト継手の終局挙動に関する研究
 - △EASCC・森山(博)2:Experimental Study on Streamlining for High Strength Bolted Frictional Joints in Plate Girder Focused on Overall Slip Behavior
 - △PSSC・郎(修)2: EFFECT OF BOLTS HEAD OPENING ANGLE ON SLIP STRENGTH OF HIGH DURABILITY FRICTION GRIP JOINTS WITH HIGH STRENGTH COUNTERSINK HEAD BOLTS
 - △IACCB・堂ノ本(修)2: Damage Identification focused on deterioration degree of bridge members using self-organizing feature map (敬称略)
 - △その他主な活動・The 6th Taiwan-Japanese Workshop on Structural Bridge Engineering・平成28年度土木学会関西支部年次学術講演会・第11回独立シンポジウム・Japan Steel Bridge Competition (美観1位, 2位, 架設2位, 構造3位, 総合3位)・平成28年全国大会第71回年次学術講演会・ミヤンマーでの実橋梁計測(ヤダナ橋・橋梁・建設コンサルタンツ協会・橋梁模型コンテスト(敢闘賞))